

分野名：高齢者教育

市民センターは“どこでもドア！”

～地域とともに未来への一歩～

北九州市立 穴生市民センター【市民センター】

館長 野見山 由佳

1. 事業名

プチサロン・あのおキャンパスまなび～や・おとなの遠足・のんびりハイク

2. 事業の目的

地域の高齢化が進む中、地域活動の担い手の裾野を広げるとともに、市民センターへの来館がままならない方々を対象に、いこいの場所を創り、様々な情報を届けたいという思いからプチサロンを企画した。なお、そこに関わる方たちを市民センターの生涯学習事業への参加、さらには地域活動への参画につなげていくことを目的としている。

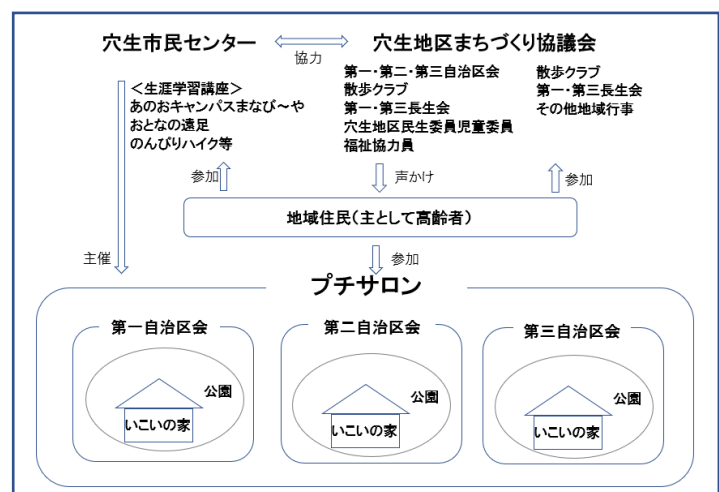
また、コロナ禍で地域コミュニティの希薄化が一層浮き彫りになっていることから、市民センターの「地域活動における拠点」という意義を再認識することで、人と人が語り合い、つながり合い、学び合う場づくりを進めていく。

3. 事業の主体

穴生市民センターが中心となり、穴生まちづくり協議会や穴生地区民生委員児童委員協議会等の協力を得て開催している。

4. 連携・協力機関・団体等

穴生地区まちづくり協議会
(主として散歩クラブ部会)
穴生地区民生委員児童委員協議会
穴生第一・第二・第三自治区会
年長者いこいの家
穴生第一・第三長生会



5. 実施に至る経緯

コロナが流行する中、地域行事も自粛が続く、市民センターだけでなく地域全体に元気がなくなったように感じていた。中でも、高齢者は外出を控えたり、人との交流を控えたりするケースが少なくなかった。さらに、市民センターでは三密を避けるために利用制限(部屋の人数制限、飲食を伴う利用等)が続いていることから、多くの人が集うことは難しいのが現状である。

そこで、市民センターが地域に出かけていくことで、建物や場所にこだわらずに、集いの場を創出し、人と人とをつなぐ役割をこなすために新しいかたちを模索したところである。

6. 事業の内容

(1) プチサロン

穴生地区には三つの自治区会があり、それぞれに公園と年長者いきいの家があることから、それを利用して月に1回市民センターが出向きサロンを開催。

普段は外出しない方も、市民センターが遠いと感じる方にも家の近くの公園で気軽に集える交流の場になっている。市民センターからは様々な情報（チラシ）を持参しており、おとなの遠足等の生涯学習事業への参加につなげている。



2022 あのおキャンパス まなび〜や！			
開講 まなび〜やは第4水曜日 10:00～12:00			
4 27 水	あつ！と書く日本史	10 26 水	思い込みの栄養学
5 25 水	私たちのまちのゴミ事情	11 30 水	くすりのはなし
6 22 水	LET'S 脳トレ SHOW	12 21 水	楽家入門
7 7 木	我ら！穴生の里 見聞録 ～開校50周年記念座談会～	1 31 火	男・丈夫なからだづくり
8 6 土	歩だからこそ 東郷の歴史を知ろう	2 15 水	おとなまなび〜やの 大遠足
9 28 水	ふうせんパレー	3 22 水	まなび〜やの修了式 うたごえひろば♪
後半のスケジュールが大幅に変更になっています。お間違えの無いようご注意ください			

(2) あのおキャンパスまなび〜や

今年度から月に1回開催。様々な分野の学びの場。講師にセンタースタッフ、地域ボランティアを起用。やがては受講生が講師を務めることで学び合いの場にしていく予定。来年度は小さなボランティアへ参加してもらえよう内容を工夫していく。

さらに、年度末には実行委員会を開催し、実行委員はセンタースタッフと共に来年度の講座を企画する。

(3) おとなの遠足&のんびりハイク

それぞれ月に1回開催。おとなの遠足は年度末に実行委員会を開き、参加者が企画。コロナの影響を受け、バスハイクを避けて公共交通機関を利用して実施中。また、実行委員会の中でも世話役の数名と詳細を話し合い、現地へ下見に出かける。危険な場所はないか、食事をどこでとることができるか等を考えながら、最終的にコースを決定している。

さらに、あのおキャンパスまなび〜やとの共催もあり、相互の交流を図ることで、今後の相乗効果を期待しているところ。

おとなの遠足は長年人気講座であったが、参加者の高齢化で「歩く距離が長い、きつい」という声が上がってきていることから、今秋から「のんびりハイク」を企画。

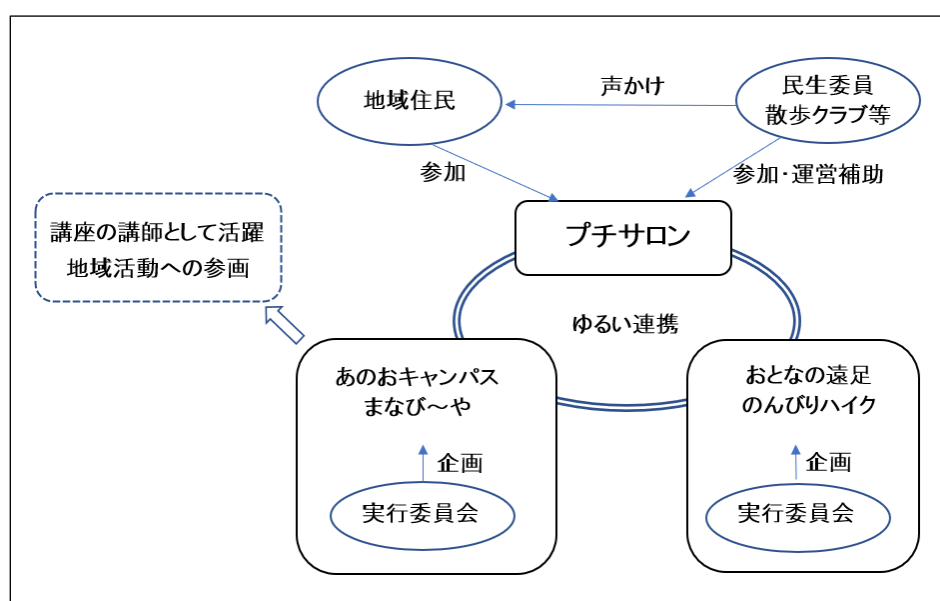


遠足へ参加できなくなってもだれかと一緒に散策を楽しむことを張り合いにして欲しいと考えて、短い距離をゆっくり、数人で一緒に歩くことを始めた。

7. 事業の成果

プチサロンを開催するにあたって、まちづくり協議会への協力を求めたところ、毎朝健康づくりのために地域の散歩を実施している「散歩クラブ」と、高齢者との接点が多い民生委員児童委員が声かけをしてくれたことで、徐々にセンター来館者以外の参加者が増加している（令和4年11月時点：参加者32名、うち通常センター来館者以外16名）。中には、プチサロンをきっかけに他のセンター事業、おとなの遠足やのんびりハイクへの参加へつなぐことができたケースもある。

市民センター生涯学習講座と将来の展望



8. 今後の課題

プチサロンは現在毎月1回、3自治区を交替で訪問していることから、自治区会側、参加者側から見ると、3ヶ月に1回の開催になる。毎月開催したいという声もあがっており、事業が軌道に乗れば主催を地域に移行することで開催数を増やし、より定着を図りつつ、住民にとって身近なところに交流の場を創出することができると考えている。

問い合わせ先

〒806-0047 福岡県北九州市八幡西区鷹の巣3丁目3-1

北九州市立 穴生市民センター

TEL : 093-641-6026

FAX : 093-641-6078

E-mail : an-cc@ktqc02.net